

大学の世界展開力強化事業
令和2(2020)年度採択
令和6(2024)年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
令和7(2025)年3月28日
独立行政法人 日本学術振興会

令和2(2020)年度に採択された8件のプログラムについて

- ① 交流プログラムの内容
- ② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及
- ⑤ 特記すべき成果
- ⑥ オンラインを活用した工夫・改善点

上記の6観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績(派遣・受入学生数)等を調査票によりフォローアップの上、各プログラムから提出された調査票から主なものを抽出・整理した。

フォローアップの総括

長く続いた新型コロナウイルス感染症拡大が収束に向かい、人的交流が回復の兆しを見せる中、2023年度は事業4年間で整備した留学環境等を展開し、オンラインを併用したハイブリッド型での他大学等への情報発信の活動が多く見受けられた。また、組織間での連携強化の動きも活発に行われており、目標達成に向けて努力していることが見受けられた。

事業全体の交流学生数については、派遣人数および受入人数のいずれも目標値を上回っていることから、支援最終年度(2024年度)である5年目もさらに取組内容を充実させ、成果を挙げていくことが期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況 ①交流プログラムの内容

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

受入については、9月4日から9月15日にかけて、ナイロビ大学獣医学部のⅢ期生4名を受け入れた。期間中、山口大学共同獣医学部4年生と一緒にBSL-3実験室、総合病性鑑定施設を活用した「動物感染症総合実習」の受講、秋吉台サファリランドでのインターンシップ等を実施した。また、受入前には京都大学の協力を得て同大学が提供する日本語プログラム入門コースを受講し、来日後は山口大学日本語教員による日本語の授業を対面受講した。

派遣については、9月18日から9月29日にかけて、山口大学共同獣医学部のⅢ期生6名及び岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科の学生2名がケニアを訪れ、ナイロビ大学獣医学部での実習、農場での診療等の他、ケニア中央医学研究所(KEMRI)、長崎大学ケニア拠点(KEMRI-NUITM)、JICAナイロビオフィスの訪問を行った。また、国際学会参加、現地学生とのディスカッション、研究発表等を行った。

また、1月28日から2月17日にかけて、山口大学大学院学生3名をナイロビに派遣し、主にKEMRI-NUITMにて、マダニ媒介感染症に関する共同研究に従事した。

さらに、3月には、山口大学国際総合科学部の学生2名をナイロビ大学に派遣し、他分野への交流拡大を進めた。

①交流プログラムの内容

東京農業大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

国際教育プログラムComprehensive International Education Program（CIEP）と世界学生サミット（ISS）を7月から8月にかけて実施し、参画校から短期学生を受け入れた。また、8月には東京農業大学からJKUATに長期交換留学生を派遣し、授業の履修に加え、ケニアの行政機関やJKUATの農場でのインターンシップを行った。

また、派遣前プログラムに位置付けている課題解決力醸成ワークショップを5月から7月にかけて実施し、9月にJKUATに短期学生を派遣した。さらにアフリカで事業を行う起業家やアフリカ留学生を交えてAfrican Caféを開催し、協定校の学生との交流の場となるOnline Exchangeを実施した。これらの活動は、協定校学生を対象とした東京農業大学教員によるOnline Courseとハイブリッドを組み合わせで実施した。

①交流プログラムの内容

○京都大学、東京外国語大学 タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

昨年度に引き続き、日本・アフリカの大学間のマッチングのため、日本の大学との連携を図るアフリカの関連組織に対し京都大学が積極的に支援を行った。具体的には、2023年9月に山口大学とともにケニアを訪問し、ナイロビ大学の学長及び学部長・部局長と面談をし、獣医学分野での教育交流から全学交流協定への拡大を支援した。また、上智大学のナイロビ大学との全学交流協定締結を支援した。

また、上で言及した大学に加えて、神田外国語大学、京都精華大学、京都先端科学大学、神戸情報大学院大学、神戸大学、東北大学、立命館大学、創価大学、東京工業大学、帝京大学、ステレンボッシュ大学、ヨハネスブルグ大学、ツワナ工科大学（以上南アフリカ）、シェーク・アンタ・ジョップ大学（セネガル）、アジスアベバ大学、アジスアベバ科学技術大学、バハルダール大学（以上エチオピア）など、日本・アフリカ双方の大学と交流促進について、各大学と協議し、助言、交流のマッチングを推進した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

本プログラムにはアフリカの6大学が参画しているので、相互の意思疎通を図って魅力的なプログラムを実施するために、あらゆる情報を相互に公開して協議する月例会議を10回開催した。さらにアフリカの6大学のうちの4大学から教員を招聘し、本プログラムの運営方針について対面で協議した。

国際共同開講の必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用い、教育の質保証を伴った公平な成績評価システムでCertificateを授与し、「Global Management」の成績に基づいて実渡航の交換留学生を公平に選抜した点がアフリカ側に好評であった。また、実渡航する交換留学生に「臨地研究」を開講し、参加学生のSDGs貢献人材としての主観的能力の向上をはかった。

長崎大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

PHASEプログラム長崎運営委員会構成員に加え、ケニア側のプログラム代表者を構成員として第4回PHASEプログラム日ケ運営委員会を開催することにより、日本側・ケニア側の双方の要望や課題点を共有し、これまでの成果報告に加えて次年度の実施に向けて改善を図ることができた事が挙げられる。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

ナイロビ大学からの受入では、渡日前から渡日後の継続した日本語授業を実施し、日本人学生との学外見学や学内での交流ですぐに日本語を活用できるカリキュラムを整えた。また、大学敷地内にある国際寮への宿泊手配をし、在学中のアフリカ出身留学生から生活面でのアドバイスなどを気軽に受けることのできる環境を整えた。

派遣では、渡航前英語研修を行なったほか、受入学生滞在中に派遣予定学生との交流会を設け、受入学生の帰国便と同じ便で学生を派遣し、日常的に交流や相互扶助できる環境づくりを行なった。

東京農業大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

東京農業大学学生を対象にAfrican Caféを実施し、アフリカからの留学生やアフリカで事業を展開する起業家を招き、アフリカの理解を深める機会を提供した。また、アフリカ協定校学生とのOnline Exchangeでは、小グループセッションを設け、日本文化やケニアの食文化をテーマに、学生が直接対話する機会を設けた。また、CIEP/ISSの受入前プログラムとしてオンライン事前オリエンテーションを実施し、長期留学の受入前プログラムとしてオンデマンド初級日本語講座を実施した。東京農業大学学生の派遣前には、危機管理専門日本アイラック社より危機管理対策の講義を実施した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

北海道大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

プログラムの水平展開に関して、2024年3月にはボツワナ農業天然資源大学と本プログラムのオンラインコース実施を軸とした教育及び研究活動に関するMOUを締結した。2024年2月には北海道大学ロバスト研究拠点と合同でOne Health Workshop -Sustainable Food and Energy-をザンビア大学にてハイブリッド形式で実施し、ナミビア大学及びザンビア国内の他大学からも参加者があり、学内のプログラムとの融合とザンビア周辺国への水平展開を両輪で進める試みを行っている。

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

プログラム専用のウェブサイトの日英2言語で開設し、国内外に広く本プログラムの進捗・成果を発信した。2023年5月には学内の留学促進イベント「留学WEEK」において本プログラムの紹介、アフリカへの留学について説明した。また、2024年3月には国際交流イベントにてブースを出展し、エジプト・ザンビア・マラウイの国情、本プログラムの内容等について紹介した。また、2023年12月には、アフリカからの学生等向けにキャリア・セミナーも開催し、民間企業との連携を促進した。

⑤特記すべき成果

○秋田大学、九州大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

2023年度に実施した「日阿協働研修2」においては、プログラム参加学生全員が実地で南アフリカ共和国のヴィッツウォーターズランド大学を訪問し、入念な準備のもと鉱山への訪問、見学、研修を実施した。訪問した鉱山は、金鉱山、白金鉱山、石炭鉱山であり、特に金鉱山と白金鉱山は日本ではもちろんのこと、世界でも南アフリカ共和国でしか経験できない採掘深度と採掘方法を実地で学ぶことができた。

長崎大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

コロナ渦の影響によりこれまで実施できていなかった短期研修プログラム（長崎フィールド）を実施し、ケニア側から計8名（前年度に受入予定だった4名を含む）、長崎大学から5名の学生が参加した。プログラム参加者は、長崎県五島市を訪れて次世代型オンライン遠隔医療システム、自然と調和した再生可能エネルギーである浮体式洋上発電所や海洋開発プロジェクト、ドローンを利用した二次離島配送事業等の事業を見学し、多くの離島を抱える長崎と僻地を多く持つアフリカの類似点に着眼しながら、プラネタリーヘルスを実体験し、日本とアフリカの橋渡しの的人材としての意識を培った。

⑤特記すべき成果

○京都大学、東京外国語大学 タイプB：交流推進・プラットフォーム構築プログラム

人材育成プラットフォーム構築事業では、会議等で各大学が抱えている問題・課題等を共有することで、さらに大学間、組織間の連携を深めることができた。

また実施大学会議では、京都大学が、アフリカでの教育研究交流の実績を活用して、スタートアップ型の宇都宮大学や山口大学を訪問し、安全管理やアフリカの大学との交流拡大などの具体的な事業実施の支援を行い、両大学での交流の安全性向上、交流拡大に貢献した。

「日本・アフリカ大学教育交流ミーティング」では、来日したセネガル共和国のシェーク・アンタ・ジョップ大学の学長が日本ーアフリカの学生交流の意義について講演を行った。また、現在、日本で活躍している3名のアフリカ出身の教員が日本に留学した経緯から日本での生活への適応過程、そして研究者となるまでの自身の経験を発表した。世界展開力の枠組みを超え日本から14大学、アフリカから16大学、その他4団体から計105名の参加があり、大学間の一層の連携の基盤構築に貢献した。実務的な観点からも意義あるイノベーション人材を創出する基盤を整えつつ、日本とアフリカの大学から新規の参加校を取り入れるプラットフォームを拡充することができた。

⑥オンラインを活用した工夫・改善点

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

海外連携大学を含めた7大学で共同開講している必修集中講義「Global Management」では教育用Webアプリ「C-learning」を用いて15回の講義ごとに小テストやレポートを課し、講義資料やその採点結果を連携するアフリカ側教員と共有している。また、チャット形式による質疑もアプリ上で可能で、2023年度はSDGsのゴール別に協働板を用意し、400を超える投稿があった。このような教育の質保証を伴った成績評価システムにより適切にCertificateが授与される点が連携するアフリカ側に好評であった。

北海道大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

北海道大学、ザンビア大学学生が利用するオンラインコンテンツとして、10コースを整備した。コンテンツについては一部を除きLMSに公開し、学生がアクセスできるように整えた。

受入学生は渡航前にオンラインで事前下調べ学習の成果報告プレゼンテーションを行い、北海道大学の教員からフィードバックを得て実際の日本での活動における背景知識の充実を図ることができた。また、派遣学生の渡航前学習として開講した授業ではハイブリッド方式やオンデマンド視聴を組み合わせ、さまざまな学年／部局から参加する学生全員の知識レベルの底上げを図れるよう柔軟な対応を行った。

オンライン授業の提供に関しては時差を考慮し原則オンデマンド方式としている。2023年度からは双方向性の高いプラットフォームへの切り替えを行なった。次年度以降はより学生からのアウトプットを引き出せるような教材構成への更新やフィードバックの充実を図る予定である。

交流学生の実績

(1-1) 交流プログラムで受け入れた日本人学生数（派遣学生数）について

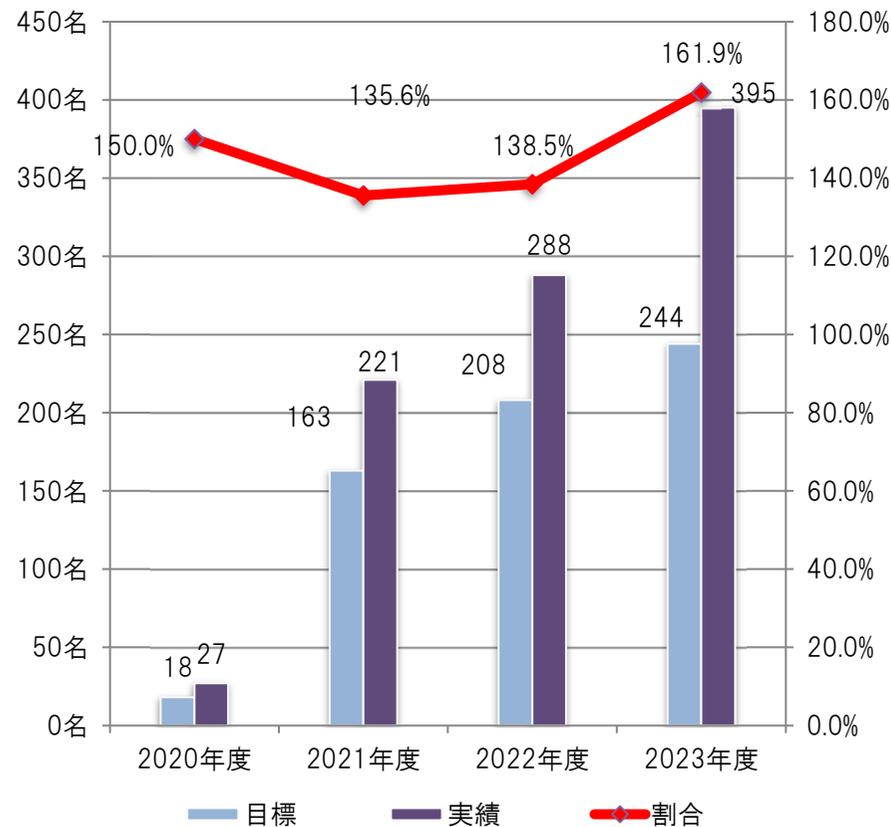
<全体の状況>

※個別派遣学生数の詳細は別表1を参照

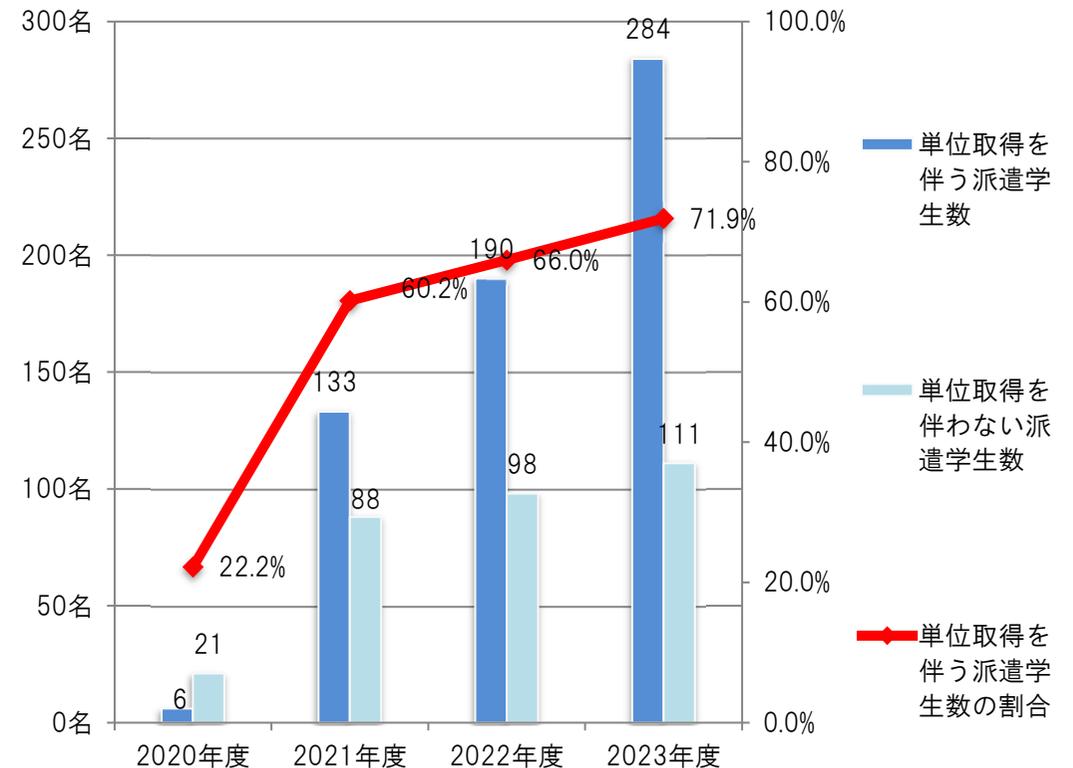
事業4年目であった2023年度は、目標以上の実績を上げた大学が多く、目標値を大きく上回った。

また、単位取得に伴う派遣学生数においても、2022年度と比較して、全体数が100名近く増加しており、全体の7割の学生が単位取得を伴う留学を実施している。

目標に対する実績の割合（派遣）



単位取得を伴う派遣学生数



(1-2) 交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

山口大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

山口大学国際総合科学部の学生2名の派遣にあたっては、AA Health Dynamics社と連携し、「課題解決力開発ワークショップ」という独自のプログラムを盛り込み、学部の特徴を活かしたプログラムを実施した。令和6年度においては、医学部の学生3名を派遣予定であり、順調に派遣人数の増加、他分野への拡大が進んでいる。

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

アフリカの協定校に短期派遣した広島大学の学生22名は、協定校に加え、JICA事務所及び事業地を訪問することで重点分野をカバーするとともに、国際協力の実相に触れることができた。また初めてマラウイ大学に学生10名を短期派遣することができた。さらに、初めてカイロ大学にセメスター派遣した学生は、環境について学び単位を取得し、帰国後、単位互換が実現した。

交流学生の実績

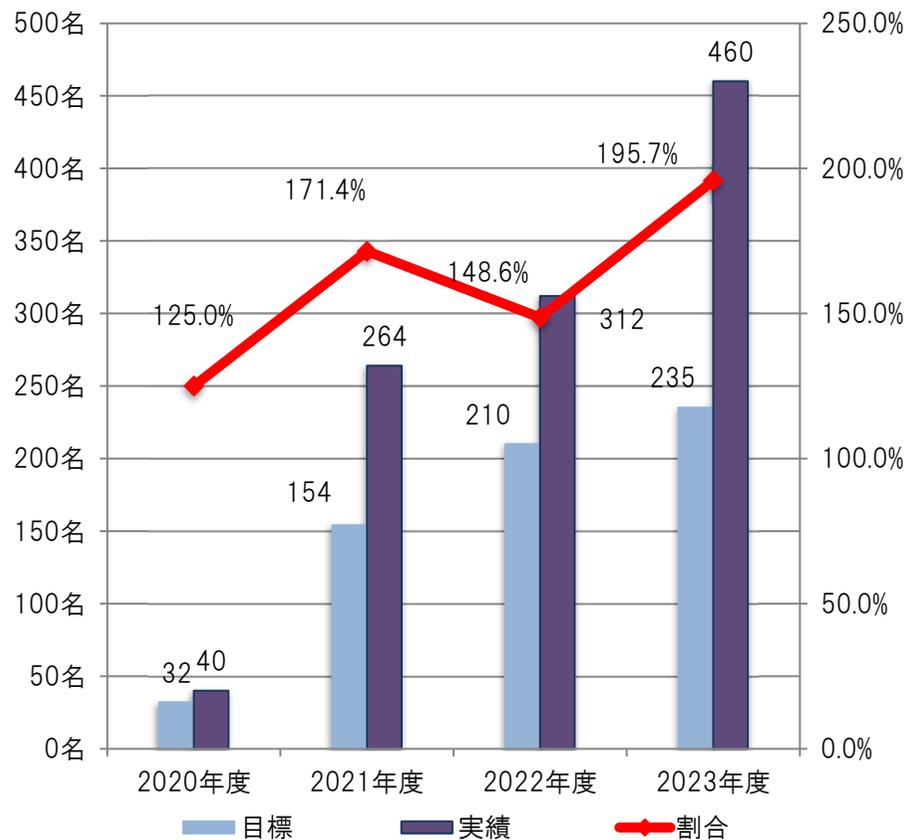
(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について

<全体の状況>

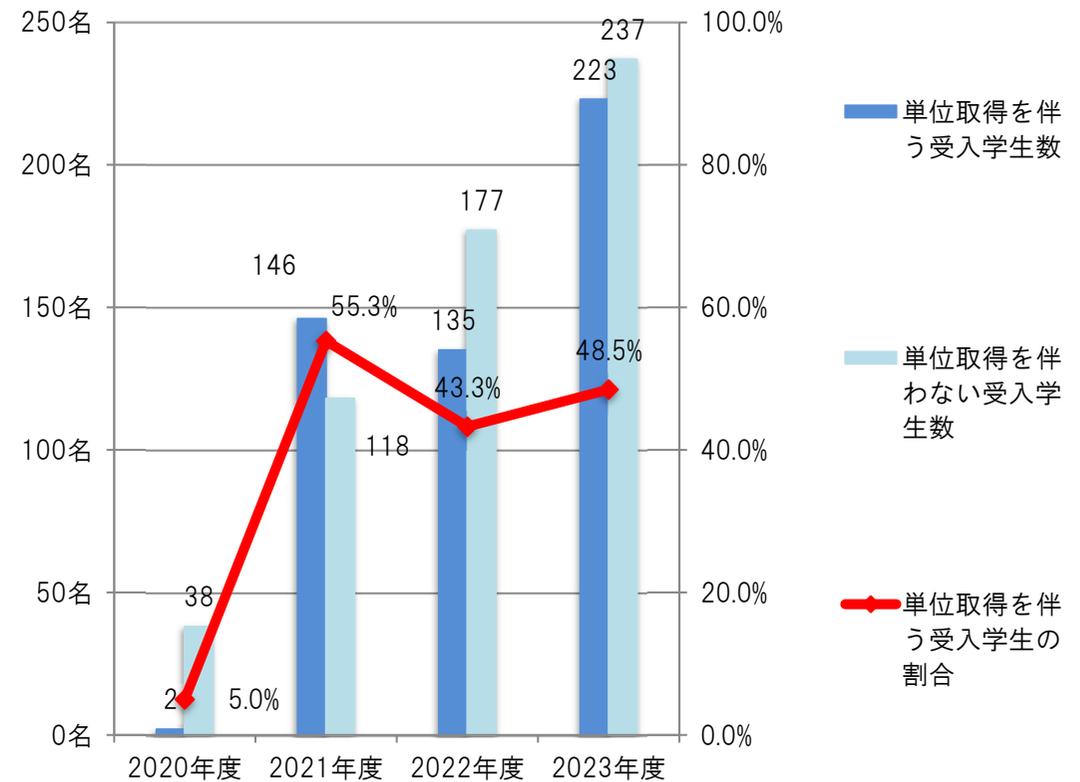
※個別派遣学生数の詳細は別表2を参照

やや低下傾向にあった前年度の2022年度と比較すると、事業4年目であった2023年度は、全体数および実績の割合が増加している。特に、目標に対して受け入れた学生数の実績については、200%近い達成率となっている。

達成目標に対する実績の割合（受入）



単位取得を行う受入学生の割合



(2-2) 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

宇都宮大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA①：スタートアップ型）

宇都宮大学では、教育用Webアプリを用いた必修集中講義「Global Management」の開講するとともに、アフリカ6大学より1名ずつの合計6名を短期・長期で受入れ、さらに「さくらサイエンスプログラム」で連携するアフリカ側から短期受入学生9名と招聘教員1名を増やし、招聘日程に合わせて「Student Summit 2024」を開催した。

○秋田大学、九州大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

「日阿協働チーム研究」で、AI機械学習を資源開発に応用することを目的に実施し、機械学習を参加学生自身が扱えるようになるためのプログラミング手法の教授を行った後に、グループごとに選択式の特定課題を選択し機械学習を適用するチーム研究を行った。学生によってはプログラミングが不得手な学生もあり、レベル差が生まれないようにTAを活用して補助を行い、すべての参加学生が機械学習を自身で活用できるようにトレーニングを行った。

(2-2) 交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

広島大学 タイプA：交流推進プログラム（タイプA②：加速・進展型）

7名の受入学生は全員初来日で、当初は生活面で戸惑うことも多かったが、広島大学の学生がサポートすることで、学生生活にもスムーズに慣れることができた。また、来日前に2カ月間、オンラインで日本語の基礎を学んだことで、カルチャーショックを軽減化することができた。セメスター受入したカイロ大学からの学生2名は、広島大学で取得した単位の一部を母校で互換できた。さらに、COIL型教育では、原則、グループ毎に1名のTAを起用することで、多様な学生がスムーズにチームとして協働学習し易い環境を提供することが可能となった。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(令和2年度(2020年度)採択)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数								
						(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		30日以上3ヶ月未満		3ヶ月以上
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
タイプA① 宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	7	45	642.9	7	45	7	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	13	66	507.7	13	66	12	65	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		2023	21	85	404.8	21	85	18	83	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0
		2024	21	0	0.0	21	0	18	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0
		計	62	196	316.1	62	196	55	193	0	0	7	3	0	0	0	0	0	0	0
山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	16	19	118.8	4	8	4	8	0	0	0	0	12	11	10	11	2	0	0
		2022	16	28	175.0	4	11	4	11	0	0	0	0	12	17	10	17	2	0	0
		2023	16	40	250.0	4	6	4	6	0	0	0	0	12	34	10	34	2	0	0
		2024	16	0	0.0	4	0	4	0	0	0	0	0	12	0	10	0	2	0	0
		計	64	87	135.9	16	25	16	25	0	0	0	0	48	62	40	62	8	0	0
合計			126	283	224.6	78	221	71	218	0	0	7	3	48	62	40	62	8	0	0
タイプA② 北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア・北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	4	15	375.0	0	0	0	0	0	0	0	4	15	4	15	0	0	0	
		2021	18	18	100.0	8	12	8	12	0	0	0	0	10	6	10	6	0	0	
		2022	18	19	105.6	8	10	8	8	0	2	0	0	10	9	10	9	0	0	
		2023	18	22	122.2	8	20	8	16	0	4	0	0	10	2	10	2	0	0	
		2024	18	0	0.0	8	0	8	0	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	
		計	76	74	97.4	32	42	32	36	0	6	0	0	44	32	44	32	0	0	
○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2022	40	21	52.5	40	21	10	21	20	0	10	0	0	0	0	0	0	0	
		2023	65	41	63.1	65	41	10	41	35	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
		2024	65	0	0.0	65	0	10	0	35	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
		計	180	72	40.0	180	72	40	72	90	0	50	0	0	0	0	0	0	0	
タイプA② 広島大学	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2021	42	28	66.7	42	28	10	0	26	27	6	1	0	0	0	0	0		
		2022	42	21	50.0	42	21	10	10	26	11	6	0	0	0	0	0	0		
		2023	43	74	172.1	43	74	10	22	26	50	7	2	0	0	0	0	0		
		2024	43	0	0.0	43	0	10	0	26	0	7	0	0	0	0	0	0		
		計	170	123	72.4	170	123	40	32	104	88	26	3	0	0	0	0	0		
長崎大学	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	6	0	6	0	0	0	4	6	4	6	0	0		
		2021	7	24	342.9	3	17	0	12	0	2	3	3	4	7	4	4	0		
		2022	12	21	175.0	8	10	5	5	0	4	3	1	4	11	4	11	0		
		2023	12	17	141.7	8	2	5	1	0	0	3	1	4	15	4	13	0		
		2024	12	0	0.0	8	0	5	0	0	0	3	1	4	0	4	0	0		
		計	47	74	157.4	27	35	15	24	0	6	12	5	20	39	20	34	0		
東京農業大学	アフリカの養蚕改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	10	0		
		2021	51	41	80.4	17	7	15	7	0	0	2	0	34	34	0	34	34		
		2022	51	64	125.5	17	39	15	36	0	0	2	3	34	25	0	25	34		
		2023	51	60	117.6	17	36	15	33	0	0	2	3	34	24	0	24	34		
		2024	51	0	0.0	17	0	15	0	0	0	2	3	34	0	0	34	0		
		計	154	6	3.9	8	6	60	76	0	0	8	6	146	0	0	83	146		
合計			627	349	55.7	417	278	187	240	194	100	96	14	210	71	64	149			
タイプB ○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度インバersion人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		2021	12	36	300.0	3	6	0	5	0	0	3	1	9	30	0	20	9		
		2022	16	48	300.0	3	12	0	7	0	0	3	5	13	36	0	0	13		
		2023	18	56	311.1	6	20	0	9	0	0	6	11	12	36	0	4	12		
		2024	18	0	0.0	6	0	0	0	0	0	6	11	12	36	0	0	12		
		計	64	140	218.8	18	38	0	21	0	0	18	17	46	102	0	24	46		
合計			64	140	218.8	18	38	0	21	0	0	18	17	46	102	0	24			
総計			817	772	94.5	495	537	258	479	194	100	103	34	258	235	104	235			

別表2:プログラムごとの受入学生数(令和2年度(2020年度)採択)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数								
						(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
タイプA① 宇都宮大学	アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	7	102	1457.1	7	102	7	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2022	13	74	569.2	13	74	12	73	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		2023	21	149	709.5	21	149	18	146	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
		2024	21	0	0.0	21	0	18		0		3		0	0	0	0	0	0	0
計	62	325	524.2	62	325	55	321	0	0	7	4	0	0	0	0	0	0	0		
山口大学	アジア・アフリカにおけるOne Health問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	16	8	50.0	4	8	4	8	0	0	0	0	12	0	10	0	2	0	0
		2022	16	9	56.3	4	8	4	8	0	0	0	0	12	1	10	1	2	0	0
		2023	16	63	393.8	4	8	4	8	0	0	0	0	12	55	10	55	2	0	0
		2024	16	0	0.0	4	0	4		0		0		12	0	10		2		0
計	64	80	125.0	16	24	16	24	0	0	0	0	48	56	40	56	8	0	0		
合計			126	405	321.4	78	349	71	345	0	0	7	4	48	56	40	56	8	0	
北海道大学	アフリカと日本の懸け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム～ザンビア・北大の頭脳循環成果を基盤として～	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0	0	
		2021	14	9	64.3	4	7	4	7	0	0	0	10	2	10	2	0	0	0	
		2022	14	27	192.9	4	8	4	4	0	4	0	10	19	10	16	0	3	0	
		2023	14	26	185.7	4	6	4	4	0	2	0	10	20	10	14	0	6	0	
		2024	14	0	0.0	4	0	4		0		0		10	0	10		0		
計	64	75	117.2	16	21	16	15	0	6	0	0	48	54	48	45	0	9	0		
○秋田大学、九州大学	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成	2020	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2021	10	11	110.0	10	11	10	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2022	50	19	38.0	50	19	10	19	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
		2023	60	31	51.7	60	31	10	31	30	0	20	0	0	0	0	0	0	0	
		2024	60	0	0.0	60	0	10		30		20		0	0	0	0	0	0	
計	180	61	33.9	180	61	40	61	80	0	60	0	0	0	0	0	0	0			
タイプA 広島大学	南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム	2020	8	13	162.5	0	0	0	0	0	0	0	8	13	8	13	0	0	0	
		2021	56	59	105.4	8	4	0	0	0	0	8	4	48	55	8	0	40	55	
		2022	56	86	153.6	8	5	0	0	0	0	8	5	48	81	8	0	40	81	
		2023	62	91	146.8	9	7	0	0	0	0	9	7	53	84	8	0	45	84	
		2024	62	0	0.0	9	0	0		0		9		53	0	8		45		
計	244	249	102.0	34	16	0	0	0	0	34	16	210	233	40	13	170	220			
長崎大学	プラネタリーヘルスの実現に向けた日ア戦略的共同教育プログラム	2020	4	12	300.0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	4	12	0	0		
		2021	8	21	262.5	4	0	0	0	0	0	4	0	4	21	4	21	0		
		2022	12	20	166.7	8	0	4	0	0	0	4	0	4	20	4	12	0		
		2023	12	20	166.7	8	0	4	0	0	0	4	0	4	20	4	16	0		
		2024	12	0	0.0	8	0	4		0		4		4	0	4		0		
計	48	73	152.1	28	0	12	0	0	0	16	0	20	73	20	61	0				
東京農業大学	アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム	2020	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	0	0		
		2021	33	43	130.3	11	12	7	12	0	0	4	0	22	31	0	31	22		
		2022	33	51	154.5	11	15	7	8	0	4	4	3	22	36	0	36	22		
		2023	33	54	163.6	11	13	7	8	0	0	4	5	22	41	0	41	22		
		2024	33	0	0.0	11	0	7		0		4		22	0	0	22			
計	114	12	10.5	16	12	28	28	0	4	16	8	98	0	108	98	0				
合計			650	470	72.3	274	110	96	104	80	10	126	24	376	360	108	227	268		
タイプB ○京都大学、東京外国語大学	アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム	2020	2	2	100.0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0		
		2021	10	11	110.0	3	2	0	0	0	0	3	2	7	9	0	7	9		
		2022	16	26	162.5	4	6	0	0	0	0	4	6	12	20	0	7	12		
		2023	17	26	152.9	4	9	0	0	0	0	4	9	13	17	0	12	13		
		2024	18	0	0.0	5	0	0		0		5		13	0	0	13			
計	63	65	103.2	18	19	0	0	0	0	18	19	45	46	0	19	45				
合計			63	65	103.2	18	19	0	0	0	0	18	19	45	46	0	19			
総計			839	940	112.0	370	478	167	449	80	10	151	47	469	462	148	302			